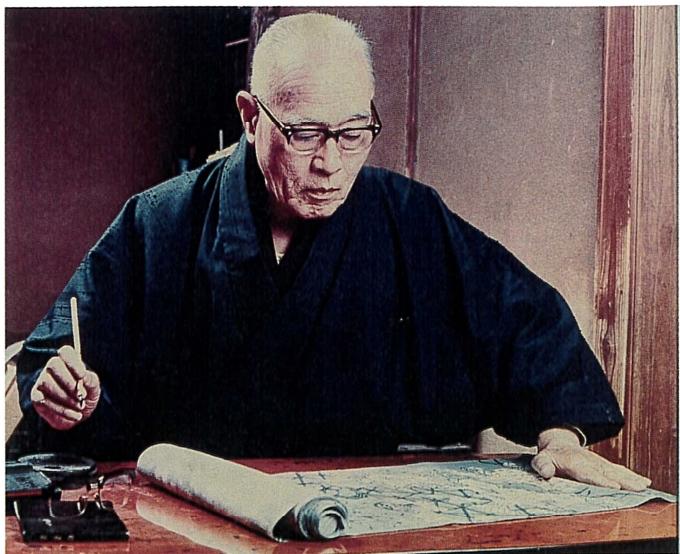


# 鎌倉芳太郎

[1898年～1983年]

香川県出身。1921年に美術教師として来沖。琉球の美術工芸や民俗文化に魅了され調査研究を実施。その調査記録は現在「鎌倉芳太郎資料」(沖縄県立芸術大学蔵)として沖縄文化史研究の最重要資料となっている。離沖後は東京美術学校の教員となるが辞任し、沖縄で学んだ紅型技法をもとに染織家として活動を展開。1973年、国指定重要無形文化財「型絵染」保持者認定。



## 作家略歴年表

鎌倉芳太郎氏の事績	時代背景（一般事項・関連事項）
<b>1898（明治 31）年 10月 19日</b> 香川県木田郡氷上村で生まれる	
<b>1921（大正 10）年 4月</b> 沖縄県女子師範学校の教師として赴任。	
<b>1924（大正 13）年</b> 旧首里王府の染織工房を調査	
<b>1927（昭和 2）年</b> 紅型染の大宗家沢崎家より型紙・型手本資料を譲り受けた。また紅型の技法を習う。	
<b>1942（昭和 17）～</b> 東京美術学校教員。	
<b>1944（昭和 19）年</b> 教員辞職。染色家として活動開始	
<b>1958（昭和 33）年</b> 第5回日本伝統工芸展初入選 (以降、第22回まで入選入賞)	<b>1941（昭和 16）年</b> 太平洋戦争（～1945）
<b>1961（昭和 36）年</b> 日本工芸会の正会員となる	
<b>1972（昭和 47）年</b> 第19回日本伝統工芸展 日本工芸会総裁賞受賞	<b>1945（昭和 20）年</b> 沖縄戦（3月26日～6月23日）
<b>1973（昭和 48）年</b> 国指定重要無形文化財「型絵染」保持者認定	<b>1955（昭和 30）年</b> 琉球政府立博物館 設立 (沖縄県立博物館・美術館の前身)
<b>1975（昭和 50）年～1982年</b> 蔵元絵師筆「八重山風俗画」・「八重山上布絵図」等を石垣市に寄贈	<b>1959（昭和 34）年</b> 琉球工業技術指導所 設立
<b>1977（昭和 52）年</b> 石垣市名誉市民として顕彰	<b>1972（昭和 47）年</b> 沖縄本土復帰
<b>1982（昭和 57）年</b> 「第18回琉球新報賞」受賞 『沖縄文化の遺宝』(岩波書店) 刊行	<b>1974（昭和 49）年</b> 沖縄県立伝統工芸指導所 設立 (沖縄県工芸振興センターの前身)
<b>1983（昭和 58）年</b> 「第10回伊波普猷賞」受賞 8月3日 中野区の自宅にて逝去（84歳）	<b>1975（昭和 50）年</b> 沖縄国際海洋博覧会
<b>1986（昭和 61）年</b> 沖縄県立芸術大学開設に伴い、大正～昭和初期（1930年代）の調査記録（ノート・ガラス乾板・写真・紅型型紙・紅型裂など）が遺族より寄贈される	<b>1986（昭和 61）年</b> 沖縄県立芸術大学創立

# 玉那霸 有公

〔1936年～〕

石垣市出身。城間家14代の城間榮喜氏に師事。独立後は伝統的な古典柄や両面染に取り組み、独創的な紅型を発展させた。1996年、国指定重要無形文化財「紅型」保持者認定。



## 作家略歴年表

### 玉那霸有公氏の事績

1936（昭和11）年10月22日

沖縄県八重山郡石垣市大川に生まれる

1961（昭和36）年

城間家14代・城間榮喜に師事

1963（昭和38）年

本格的に紅型の仕事を始める  
独立し、古典柄を中心に制作し、琉球舞踊の衣装なども手掛けるようになる

1970（昭和45）年

創作活動に打ち込むようになる

1975（昭和50）年

第22回日本伝統工芸展初出品  
両面染の制作に取り組むようになる

1978（昭和53）年

第25回日本伝統工芸展 奨励賞受賞  
日本工芸会正会員認定

1979（昭和54）年

第26回日本伝統工芸展 奨励賞受賞

1983（昭和58）年

沖縄タイムス芸術選賞 大賞受賞

1986（昭和61）年

福岡岩田屋 第1回個展

1987（昭和62）年

福岡岩田屋 第2回個展

1991（平成3）年

第38回日本伝統工芸展 文部大臣賞受賞

1996（平成8）年

国指定重要無形文化財「紅型」保持者認定

1998（平成10）年 紫綬褒章受章

2006（平成18）年 旭日小綬章受章

### 時代背景（一般事項・関連事項）

1941（昭和16）年

太平洋戦争（～1945）

1945（昭和20）年

沖縄戦（3月26日～6月23日）

1946（昭和21）年

沖縄民政府立東恩納博物館 設立

1955（昭和30）年

琉球政府立博物館 設立  
(沖縄県立博物館・美術館の前身)

1959（昭和34）年

琉球工業技術指導所 設立

1972（昭和47）年

沖縄本土復帰

1974（昭和49）年

沖縄県立伝統工芸指導所 設立  
(沖縄県工芸振興センターの前身)

1975（昭和50）年

沖縄国際海洋博覧会

1986（昭和61）年

沖縄県立芸術大学創立

1992（平成4）年

首里城正殿復元

2000（平成12）年

沖縄サミット

同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」がユネスコ世界遺産に登録される

# 城間 榮喜

〔1908年～1992年〕

那覇市出身。琉球王国時代に紅型製作を家業とした城間家に生まれる。戦後の荒廃期に城間宗家14代として紅型の復興に尽力。多くの紅型作家を育て、現在の紅型文化の基礎を築いた。1973年、県指定無形文化財「びん型」保持者認定。



## 作家略歴年表

### 城間榮喜氏の事績

1908（明治41）年3月4日

城間家の長男として生まれる

1927（昭和2）年

紅型宗家城間家14代を継ぐ

1947（昭和22）年

敗戦後、手持ちの材料で紅型の仕事を再開

1950（昭和25）年

『紅型技術保存会』が結成され研究を志す者が工房に集まった

1952（昭和27）年

国展入選。びんがた研究会結成  
(現在の琉球びんがた事業協同組合の前身)

1963（昭和38）年

沖縄タイムス文化賞受賞  
(「無形文化財としての紅型復興の功績」により)

1971（昭和46）年

琉球新報賞受賞（紅型復興の功績に対して）

1973（昭和48）年

沖縄県指定文化財（工芸技術）技能保持者認定

1988（昭和63）年

沖縄県功労賞受賞

1989（平成元）年

「沖縄の心を染めて70年 技と仕事」展

1990（平成2）年

那覇市市政功労賞受賞

1992（平成4）年

6月9日逝去 84歳

同年 伝統文化ポーラ特賞受賞

### 時代背景（一般事項・関連事項）

1941（昭和16）年

太平洋戦争（～1945）

1945（昭和20）年

沖縄戦（3月26日～6月23日）

1946（昭和21）年

沖縄民政府立東恩納博物館 設立

1955（昭和30）年

琉球政府立博物館 設立  
(沖縄県立博物館・美術館の前身)

1959（昭和34）年

琉球工業技術指導所 設立

1972（昭和47）年

沖縄本土復帰

1974（昭和49）年

沖縄県立伝統工芸指導所 設立  
(沖縄県工芸振興センターの前身)

1975（昭和50）年

沖縄国際海洋博覧会

1986（昭和61）年

沖縄県立芸術大学創立

1992（平成4）年

首里城正殿復元

# 新垣 幸子 [1945年～]

疎開先の熊本県出身。石垣島の植物を使用し多彩な色を表現する。八重山上布と後継者育成に尽力した。1991年、県指定無形文化財技能保持者認定、2024年、国指定重要無形文化財「八重山上布」保持者認定。



## 作家略歴年表

### 新垣幸子氏の事績

**1945（昭和 20）年 10月 30日**  
疎開先の熊本県にて生まれる

**1973（昭和 48）年**  
工房設立し括染めの八重山上布を織る

**1983（昭和 58）年**  
沖縄県工芸公募展優秀賞受賞

**1991（平成 3）年**  
沖縄県指定無形文化財技能保持者認定

**1995（平成 7）年**  
東京銀座・和光にて第1回個展 全3回個展を行う

**1997（平成 9）年**  
沖縄県優秀技能者表彰  
第44回日本伝統工芸展 展示作品「木洩れ陽」出品

**1999（平成 11）年**  
第19回伝統文化ボーラ賞受賞  
第46回日本伝統工芸展 展示作品「豊穣」出品

**2001（平成 13）年**  
八重山毎日文化賞受賞

**2003（平成 15）年**  
第50回日本伝統工芸展 展示作品「麦秋」出品

**2017（平成 29）年**  
沖縄県文化功労賞受賞

**2024（令和 6）年**  
国指定重要無形文化財「八重山上布」保持者認定

### 時代背景（一般事項・関連事項）

**1941（昭和 16）年**  
太平洋戦争（～1945）

**1945（昭和 20）年**  
沖縄戦（3月26日～6月23日）

**1946（昭和 21）年**  
沖縄民政府立東恩納博物館 設立

**1955（昭和 30）年**  
琉球政府立博物館 設立  
(沖縄県立博物館・美術館の前身)

**1959（昭和 34）年**  
琉球工業技術指導所 設立

**1972（昭和 47）年**  
沖縄本土復帰

**1974（昭和 49）年**  
沖縄県立伝統工芸指導所 設立  
(沖縄県工芸振興センターの前身)

**1975（昭和 50）年**  
沖縄国際海洋博覧会

**1986（昭和 61）年**  
沖縄県立芸術大学創立

**1992（平成 4）年**  
首里城正殿復元

**2000（平成 12）年**  
沖縄サミット  
同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が  
ユネスコ世界遺産に登録される

# 藤村 玲子

(1939年～2015年)

那覇市生れ。城間家14代の城間榮喜氏に師事。独立後、工房を設立。琉球紅型の復元や独創的な作品を制作した。1997年、県指定無形文化財「びん型」保持者認定。



## 作家略歴年表

藤村玲子氏の事績	時代背景（一般事項・関連事項）
<b>1939（昭和14）年</b> 11月14日生まれ	<b>1941（昭和16）年</b> 太平洋戦争（～1945）
<b>1953（昭和28）年</b> 14歳にして紅型の第一人者、城間榮喜氏に師事	<b>1945（昭和20）年</b> 沖縄戦（3月26日～6月23日）
<b>1963（昭和38）年</b> 独立して那覇市首里に工房を設立	<b>1946（昭和21）年</b> 沖縄民政府立東恩納博物館 設立
<b>1975（昭和50）年</b> 沖縄タイムス展会員	<b>1955（昭和30）年</b> 琉球政府立博物館 設立 (沖縄県立博物館・美術館の前身)
<b>1982（昭和57）年</b> 日本伝統工芸染織展入選 日本伝統工芸展入選	<b>1959（昭和34）年</b> 琉球工業技術指導所 設立
<b>1985（昭和60）年</b> 第19回沖縄タイムス芸術選賞奨励賞受賞	<b>1972（昭和47）年</b> 沖縄本土復帰
<b>1997（平成9）年</b> 沖縄県指定無形文化財「びん型」保持者に認定	<b>1974（昭和49）年</b> 沖縄県立伝統工芸指導所 設立 (沖縄県工芸振興センターの前身)
<b>1999（平成11）年</b> 第33回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞	<b>1975（昭和50）年</b> 沖縄国際海洋博覧会
<b>2003（平成15）年</b> 第22回伝統文化ポーラ賞受賞	<b>1986（昭和61）年</b> 沖縄県立芸術大学創立
<b>2009（平成21）年</b> 第53回沖縄タイムス文化賞受賞	<b>1992（平成4）年</b> 首里城正殿復元
<b>2015（平成27）年</b> 1月17日逝去 77歳	<b>2000（平成12）年</b> 沖縄サミット 同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」がユネスコ世界遺産に登録される

# 宮平 初子

[1922年～2022年]

首里出身。絹加工や植物染料の染色研究を行い、戦後初めて道屯織を復元、花織を製品化させた。人材育成にも尽力し多くの研究を行っている。1974年、県指定無形文化財「本場首里の織物」保持者認定、1998年、国指定重要無形文化財「首里の織物」保持者認定。



## 作家略歴年表

### 宮平初子氏の事績

1922（大正 11）年 11月 6日	沖縄県那覇市首里に生まれる
1959（昭和 34）年	道屯織を戦後初めて復元
1965（昭和 40）年	第17回沖展 沖展賞受賞
1970（昭和 45）年	宮平織物工房開設
1971（昭和 46）年	第1回個展「宮平初子草木染手織展」から、個展全12回を行う
1973（昭和 48）年	第7回沖縄タイムス芸術選賞 大賞受賞
1974（昭和 49）年	沖縄県指定無形文化財「本場首里の織物」技能保持者認定
1976（昭和 51）年	那覇伝統織物事業協同組合の初代理事長に就任
1981（昭和 56）年	黄綬褒章受賞
1984（昭和 59）年	伝統文化ポーラ特賞受賞
1992（平成 4）年	ダイヤモンドレディ賞受賞
1998（平成 10）年	国指定重要無形文化財「首里の織物」保持者認定
2000（平成 12）年	勲四等宝冠章受章
2022（令和 4）年	3月7日逝去 99歳

### 時代背景（一般事項・関連事項）

1941（昭和 16）年

太平洋戦争（～1945）

1945（昭和 20）年

沖縄戦（3月26日～6月23日）

1946（昭和 21）年

沖縄民政府立東恩納博物館 設立

1955（昭和 30）年

琉球政府立博物館 設立

（沖縄県立博物館・美術館の前身）

1959（昭和 34）年

琉球工業技術指導所 設立

1972（昭和 47）年

沖縄本土復帰

1974（昭和 49）年

沖縄県立伝統工芸指導所 設立

（沖縄県工芸振興センターの前身）

1975（昭和 50）年

沖縄国際海洋博覧会

1986（昭和 61）年

沖縄県立芸術大学創立

1992（平成 4）年

首里城正殿復元

2000（平成 12）年

沖縄サミット

同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が  
ユネスコ世界遺産に登録される

# 與那嶺 貞

〔1909年～2003年〕

読谷村生れ。1960年代、途絶えかかっていた読谷山花織の製作に取り組み、復興を果たした。1975年、県指定無形文化財保持者認定、1999年、国指定重要無形文化財保持者認定。



## 作家略歴年表

與那嶺貞氏の事績	時代背景（一般事項・関連事項）
<b>1909（明治42）年1月20日</b> 沖縄県読谷村に生まれる	<b>1941（昭和16）年</b> 太平洋戦争（～1945）
<b>1964（昭和39）年</b> 村の生活改良普及員を勤めていたときに村長から依頼を受け、当時ほとんど途絶えかかっていた読谷山花織の復興に取り組む	<b>1945（昭和20）年</b> 沖縄戦（3月26日～6月23日）
<b>1975（昭和50）年</b> 沖縄県指定無形文化財保持者「読谷山花織」認定	<b>1946（昭和21）年</b> 沖縄民政府立東恩納博物館設立
<b>1977（昭和52）年</b> 第24回日本伝統工芸展初入選	<b>1955（昭和30）年</b> 琉球政府立博物館設立 (沖縄県立博物館・美術館の前身)
<b>1979（昭和54）年</b> 第14回西部工芸展 朝日新聞社金賞受賞	<b>1959（昭和34）年</b> 琉球工業技術指導所設立
<b>1982（昭和57）年</b> 勲六等瑞宝章受章	<b>1972（昭和47）年</b> 沖縄本土復帰
<b>1986（昭和61）年</b> 沖縄タイムス芸術選賞 大賞	<b>1974（昭和49）年</b> 沖縄県立伝統工芸指導所設立 (沖縄県工芸振興センターの前身)
<b>1990（平成2）年</b> 日本工芸会正会員	<b>1975（昭和50）年</b> 沖縄国際海洋博覧会
<b>1993（平成5）年</b> 沖縄タイムス文化賞受賞	<b>1986（昭和61）年</b> 沖縄県立芸術大学創立
<b>1995（平成7）年</b> 第15回伝統文化ポーラ賞にて「読谷山花織」の復興により特賞受賞	<b>1992（平成4）年</b> 首里城正殿復元
<b>1999（平成11）年</b> 国指定重要無形文化財保持者「読谷山花織」認定	<b>2000（平成12）年</b> 沖縄サミット 同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」がユネスコ世界遺産に登録される
<b>2001（平成13）年</b> 勲四等瑞宝章受章	
<b>2003（平成15）年</b> 逝去 94歳	

# 平良 敏子

〔1921年～2022年〕

喜如嘉出身。沖縄戦で途絶えた芭蕉布の復興、芭蕉布織物工房を開き芭蕉布の技術と後継者育成に尽力した。1972年、県指定無形文化財「芭蕉布」保持者認定、2000年、国指定重要無形文化財「芭蕉布」保持者認定。



## 作家略歴年表

平良敏子氏の事績	時代背景（一般事項・関連事項）
<b>1921（大正 10）年 2月 14日</b> 沖縄県国頭郡大宜味村喜如嘉に生まれる	<b>1941（昭和 16）年</b> 太平洋戦争（～1945）
<b>1955（昭和 30）年</b> 島産愛用運動習慣の展示会芭蕉布の部 優良賞受賞	<b>1945（昭和 20）年</b> 沖縄戦（3月26日～6月23日）
<b>1965（昭和 40）年</b> 沖縄タイムス文化賞受賞	<b>1946（昭和 21）年</b> 沖縄民政府立東恩納博物館 設立
<b>1963（昭和 38）年</b> 本格的な芭蕉布織物工房を開く	<b>1955（昭和 30）年</b> 琉球政府立博物館 設立 (沖縄県立博物館・美術館の前身)
<b>1972（昭和 47）年</b> 第1回個展開催 全5回の個展を行う 県指定無形文化財「芭蕉布」の保持者として認定	<b>1959（昭和 34）年</b> 琉球工業技術指導所 設立
<b>1973（昭和 48）年</b> 第1回沖縄民芸振興展 最優秀賞受賞 労働大臣により卓越技能賞受賞	<b>1972（昭和 47）年</b> 沖縄本土復帰
<b>1974（昭和 49）年</b> 喜如嘉の芭蕉布保存会の代表となる 「喜如嘉の芭蕉布」が国の重要無形文化財認定	<b>1974（昭和 49）年</b> 沖縄県立伝統工芸指導所 設立 (沖縄県工芸振興センターの前身)
<b>1980（昭和 55）年</b> 黄綬褒章 授与	<b>1975（昭和 50）年</b> 沖縄国際海洋博覧会
<b>1981（昭和 56）年</b> 第1回伝統文化ポーラ大賞受賞	<b>1986（昭和 61）年</b> 沖縄県立芸術大学創立
<b>1993（平成 5）年</b> 琉球新報社より琉球新報賞受賞	<b>1992（平成 4）年</b> 首里城正殿復元
<b>2000（平成 12）年</b> 国指定重要無形文化財「芭蕉布」保持者	<b>2000（平成 12）年</b> 沖縄サミット 同年 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」がユネスコ世界遺産に登録される
<b>2022（令和 4）年</b> 9月13日逝去 101歳	

# 祝嶺 恭子

〔1937年～〕

那覇市出身。女子美術大学にて染織を学んだのち、首里高等学校・沖縄県立芸術大学と長年に渡り教育に携わりながら、琉球・沖縄の染織の研究、執筆、創作活動を行う。国展会員・沖展会員。

1991年、県指定無形文化財「本場首里の織物」保持者認定。2023年、国指定重要無形文化財「首里の織物」保持者認定。



## 作家略歴年表

### 祝嶺恭子氏の事績

1937（昭和 12）年

那覇市生まれ

1962（昭和 37）年

女子美術大学芸術学部美術学科工芸科 卒業

1962（昭和 37）年

琉球政府立首里高等学校勤務

1977（昭和 52）年

第1回伝統的工芸品展 内閣総理大臣賞

1978（昭和 53）年

78'ワールドイン京都コンペ  
特別優秀賞・川島織物賞 同時受賞

1986（昭和 61）年

沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科  
助教授 就任

1987（昭和 62）年

沖縄タイムス芸術選賞 芸術大賞

1990（平成 2）年

沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科  
教授 就任（～2002年）

1991（平成 3）年

沖縄県指定伝統本場首里の織物 技能保持者に認定

1992（平成 4）年

文部省在外研究員としてドイツ海外研修（平成5年3月迄）  
ベルリン民族学博物館所蔵の「琉球王朝時代の染織」を  
調査研究

1998（平成 10）年

第1回児玉親徳賞 藏前工業会（東京工業大学同窓会）

2003（平成 15）年

祝嶺染織研究所 開設

2004（平成 16）年

第24回伝統文化ポーラ賞 優秀賞

2008（平成 20）年

個展 祝嶺恭子染織展 -琉球の香り、今に伝えて-/  
東京 銀座和光

2013（平成 25）年

ベルリン国立民族学博物館所蔵  
琉球・沖縄染織資料調査報告書 執筆

2015（平成 26）年

平成 27 年度 沖縄県功労者表彰

2016（平成 27）年

女子美術大学平成 28 年度「100周年記念大村文子基金」  
大村特別賞 受賞

2021（令和 3）年

祝嶺恭子作品集 琉球の織りいろいろに魅せられて 出版

2021（令和 3）年

個展 祝嶺恭子染織展 -琉球の織色に魅せられて-/  
沖縄 那覇市民ギャラリー

2021（令和 3）年

第65回 沖縄タイムス賞 正賞

2021（令和 3）年

令和 3 年秋の叙勲 瑞宝小綬章

2023（令和 5）年

重要無形文化財「首里の織物」保持者（人間国宝）認定